

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901238		
法人名	アート園有限会社		
事業所名	グループホームアート園	ユニット名	浦田4番地
所在地	福岡県福岡市博多区浦田1-12-12		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

利用者が楽しく健やかに暮らせるように日々の生活の中から個人の望む想いや要望を聞き取り、職員と一緒に考え、より良い暮らしを続けていけるような生活環境を作っています。又地域の方々との交流を大切にして事業所と共に支え合い社会との繋がりの輪が築けるように積極的に地域行事の参加を促しています。そして利用者の方々々が地域の中で安全で安心して暮らせるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々との交流を深め地域に開かれたアート園になるよう努めていきます」と理念を掲げている。理念に基づき個人の楽しみや、やりたい事を出来る限り実現出来るようカンファを行ない取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や中学生の職場体験学習の受け入れをしている。また、毎月開催される老人会での入居者の唄や踊り等の参加を行なっている。散歩や買い物に出掛けた時に近所の方への挨拶を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いている民生委員や自治会の方々と意見交換を行なっている。又施設見学をして頂き認知症の方々の日常生活を見て頂いたり地域の老人会に参加してふれあいの場を設けている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議で園の運営や入居状況や活動内容や外部評価の結果と取り組み内容を報告し家族代表の意見や地域包括センターの担当者からの介護情報を出してもらいサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、包括センターの担当者との情報交換等相談を行なう。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて、身体拘束をテーマに勉強を行い、園の方針や今後の取り組みを発表する。知識の習得及び、意識啓発に役立てる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて、年に一度、接遇をテーマに勉強をし虐待が起こらないようにアンケートを取り意識調査を行なう。具体的に例をあげ虐待がどういふものか、全職員に周知出来るよう虐待が見過ごされる事のないように努めている。	

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会を設けており、定期的に権利擁護や成年後見人について勉強を行い成年後見人の了解を得て活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族の不安や疑問点を伺い事業所の取り組み、対応可能な範囲について説明し重度化や看取りについての要望を伺う。又入居前には見学を勧め転居による混乱を最小限にするよう納得された上で契約をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等にて家族の方の意見や要望を伺い意見箱を設置している。入居者との会話で不安や不満を察知し職員間で話し合いを行なう。運営推進のメンバーである民生委員の方にも相談窓口になって頂いている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を元に、毎月の意見交換日を定め職員の意見や提案を聞き、より良い運営が出来るように意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福岡市事業者協議会に参加しており研修に参加後勉強会にて報告をし全職員への周知を図る。又各自が向上心を持ちいつでも職員が資料を閲覧できるようにファイルしている。管理者は職員の意見や要望を聞き職場環境の改善、条件の整備に努める。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。又採用後も外部研修や内部勉強会を通して能力を発揮出来るように配慮している。全スタッフが目標として「認知症実践者研修」が受講出来るように順次支援している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修に参加し、園内の勉強会で取り上げて全職員が利用者に対する人権を尊重出来るよう働きかけている。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡市の介護事業者協議会に参加しており研修に参加後勉強会にて報告し職員への周知を図っている。園内での勉強会でも定期的にテーマを決め資料を配布し周知出来るよう活躍している。実践者研修の資料はいつでも閲覧できるようファイルにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市の介護事業者協議会の研修に参加し、他の事業所の職員と情報交換を行ないサービスの向上に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設長が自宅や病院等に伺い話を聞くようにしている。本人との面談にて生活状況を把握するように努め不安や困っている事に耳を傾け具体的にどう対応していくかを検討し信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設長が自宅や病院等に伺い家族との面談にて不安や悩み、要望を伺い事業所として施設長及び職員はどのように対応出来るか話し合い受け止める努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の想い状況等を確認し必要としている支援を見極めサービスの提供や相談に乗るようにしており、リハビリ通院、訪問歯科の利用可能な事を伝え他機関へのサービス利用に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする際に、本人の不安、喜びを理解する事に努め毎日の生活での家事、レクリエーション等を通して利用者と職員が共に協力し合い楽しみなど共感出来るように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催し毎回行事への参加の呼びかけを行い本人、家族、職員と共に絆を深めている。面会時では情報交換を行ない本人の不安、不満など職員で解決できない所は相談し協力して頂き支えていく関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が集まる催しにお連れし交流が持てるように支援している。又昔からの知人、友人の方に来園して頂いたり家族の方と一緒に馴染みの場所に行けるように支援している。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課でのラジオ体操やレクレーションを行ない地域との交流の場での唄や踊りの発表等、目標を持ち他ユニットの方々と協力し合い支えながら利用者同士が関わりあえるような支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院へお見舞いに行ったり相談があれば必要に応じて対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し一人一人の思いや生活歴の把握に努め利用者の日々の行動や表情から汲み取るよう努めている。又家族からの情報を得て入居者の趣味や生活習慣が継続できるよう検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族の方に馴染みの暮らし方、生活歴を伺いセンター方式を活用しサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し1日の生活のパターンと心身の状態の変動を記録したり、様子を観察する事で出来る事や解る力を把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に本人や家族の希望を聴き職員全員でアセスメントやモニタリング、カンファレンスを行なう。又毎月の評価に沿って変化のある入居者に対しては現状に即した介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を記入する際は、利用者の状態の変化やその時の様子や介護計画の実践を記入するようにして情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてリハビリ受診や他医療機関への希望に応じている。又買い物や理美容室の利用等必要な支援は柔軟に対応し個人の満足を高めるように支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会の方々との意見交換を行ない多種の行事や催事にも参加している。又消防関係者との避難訓練や防災害時での自治会、民生委員への連絡網、警察の協力を得、セーフティネットワーク作りなど行い安全に暮らせるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医からの情報交換や連絡が取れるようにして安心して頂けるように支援している。又緊急時には提携している総合病院を紹介して頂ける体制がある。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており利用者の健康管理や状態の変化等を常に申し送りで伝え相談や支持をもらう。又提携医療機関との連携も密にし適切な受診、看護を受けられる体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。又家族や入院先のスタッフの方とも情報交換しながら回復状況を伺い把握し速やかな退院、支援に結び付けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に終末期に対する考え方を伺っている。終末期を迎えられた際には事業所の対応方針について本人の気持ちを大切に家族との話し合いを充分に行なう。利用者が急変した場合は医療機関と連携を取りながら対応できるようにしている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応というテーマで勉強会を開いており看護職員に緊急時対策のデモをしてもらい応急手当や初期対応の訓練を行なっている。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応としてスプリンクラーを設置、定期的に利用者参加の元に職員が避難訓練を行なっている。又民生委員の方を通して災害時は地域の方の協力を得られるようお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で虐待や接遇等をテーマに取り上げ言葉使いや介護をする時も利用者の人格や誇り、プライバシーを損ねないよう意識している。又個人情報に関わるものは目に付かないようにし、申し送りも別室で行なうよう心がけている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の希望や思いを聞きだし、意思表示が困難な方は声掛けにて表情を読み取り複数の提案を出し利用者が選択しやすいように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に制限は設けてないが毎日の体調チェック時に利用者がどのように過ごしたいかを伺い、利用者が望む事を一緒に考え、希望に添えるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性を大切に、衣服の選択等好みで選んで頂き、又定期的に訪問理容を利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の暮らしの中で、シニヤライフよりメニューを取り入れ利用者が食べやすいように支援している。片付け等一緒に行い個人の能力を活かし楽しい食事の時間を作っている。又外食等も楽しんで頂いている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に1日の食事、水分摂取量を記録し栄養バランスや健康状態を確認している。嚥下機能が低下している方にはミキサー食にトロミを付けて提供している。又嚥下体操を行なう事で機能低下を防ぐ支援をしている。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、見守りや介助を行ない就寝時には義歯の洗浄消毒を行なうようにしている。又利用者全員が週に一度の訪問歯科を受け口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ案内の矢印を提示し、トイレの場所を認識しやすい工夫をしたり、利用者の排泄パターンを把握し声掛けや誘導をしている。又失敗した場合もプライドを傷付けない様自立に向けた支援を行なっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のいい食事を心がけ、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、体操やマッサージ、散歩で身体を動かし自然排便が出来るように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は、決めているが希望があれば対応出来るようにしている。又湯温も好みに合わせ、ゆっくりと入浴して頂けるように支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう務めている。就床、起床時間は決めず個人の習慣を尊重し一人ひとりの体調や希望を考慮してゆっくり安眠、休息が出来るよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容、目的、用法、副作用を把握出来るように勉強会を開催したり処方箋を個人別に整理し内容を確認出来るようにしている。又受診の際は受診記録に症状、処方内容など記入し確認出来るようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に沿った役割を日々の生活の中でみつけ食器洗いや洗濯干しの手伝いをして頂く。歌を唄ったり、ゲームをしたりと気分転換の支援を行なっている。		

自己・外部評価表平成25年4番地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に配慮し希望者や声掛けにて散歩や買い物にお誘いしている。又年間行事での花見や食事会での外出や地域での催し物に家族の協力を得て外出する機会を設けている。本人の希望を聞き職員で検討し支援していく事を心掛けている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により一緒に買い物に行けるようにしている。小額を所持している方は買い物へ行き残高を職員が把握している。ご家族と相談し本人の了承を得て買い物へ行く事の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、ご家族や知人に電話出来るよう支援している。手紙は受け取る事は出来るが文章を書くのが難しいので定期的に出す園便りでの報告をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の掲示物や展示物、生け花を飾り四季感を出す工夫をしている。又空調設備により換気や冷暖房の調整を行い快適に過ごせる工夫をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビがあり、いつでも観れるようにして利用者が楽しく過ごせる心地の良い空間をつくっている。又ソファを設置し独りになれる居場所の工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し入居前の生活歴を考慮しながら使い慣れた家具や好みの絵、家族写真等を飾り居心地良く過ごせるように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ等矢印案内や絵で案内を促し自分で判断し安全に行動が出来自立した生活が送れるように工夫している。		